notice

サイクリングで出会う、新しい札幌の魅力
ピクニックライド参加者募集

※写真はイメージです

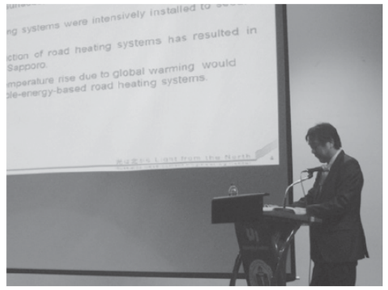
7/21(土) 当別 小麦づくしツアー
10:00–16:00 ※定員になり次第締め切らせていただきます。

当別町では、7月の風景は小麦畑が主役です。今回の小麦づくしツアーでは、黄金に色づき始めた小麦畑をサイクリング。ランチでは当別町で採れた小麦を原料に使った美味しいパスタ屋さんに立寄ります。当別の小麦畑を見ながら、小麦について学び、小麦を美味しく頂くツアー、ぜひご参加ください！電動アシスト自転車もあり、楽々坂を登れますよ。

お申込み・お問い合わせ：さっぽろサイクルラボ 事務局
〒001-0011　札幌市北区北11条西2丁目2-17セントラル札幌北ビル4F
（一社）シーニックバイウェイ支援センター内
［受付時間］9:00～18:00（土・日・祝を除く）
［お申込み］E-mail: picnic@sapporocyclelabo.jp　FAX: 011-708-0430
［お問い合わせ］URL: http://www.sapporocyclelabo.jp　TEL: 011-708-0429

notice

第12回 寒地開発に関する国際シンポジウム
ISCORD 2019開催のご案内



※前回の様子

テーマ：寒地における持続可能な資源管理
(Sustainable Resources Management in Cold Regions)

第12回ISCORDが、2019年6月17日（月）～19日（水）の期間、フィンランド オウル市で開催されます。以下は論文提出関連の予定です。詳細については、追ってdecマンスリーでお知らせいたします。

◆論文概要提出締切：2018年10月 1日（月）　◆概要審査結果通知：2018年11月14日（水）
◆本論文提出締切：2019年 2月 4日（月）　◆本論文審査結果通知：2019年 3月20日（水）
◆論文発表者登録締切：2019年 4月30日（火）

お問合せ：
［国　　内］ISCORD事務局 北海道大学大学院工学研究科　E-mail: iscord@eng.hokudai.ac.jp
または（一社）北海道開発技術センター 調査研究部（担当：佐賀）　TEL:011-738-3364　FAX:011-738-1890
［現地窓口］（英語対応のみ）オウル大学 Prof. Riitta Kamula, D.Sc.（Tech）　E-mail: Riitta.Kamula@oulu.fi
［ISCORD 2019ウェブサイト］URL: http://www.ril.fi/en/events/iscord-2019.html

編集後記

先月開催された「第27回北海道女だけの相撲大会」（福島町）に今年も参加してきました。今年も独りぼっちの出場でしたが、7名もの同僚や友だちが応援に駆けつけてくれ、（田島さん、好子さんありがとう！）勇気100倍！（笑）。生憎の雨で会場が総合体育館となり残念でしたが、昨年よりも猛者が増え、試合は迫力満点！会場は熱気ムンムンの大盛り上がりでした！隣の席の御婦人が「初めて見たけど、こんなに楽しいとは思わなかった！ファンになった！」と興奮気味に話しかけてこられ意気投合（笑）。あっ私の試合結果は散々たるものでした…。涙（M.K）

dec monthly vol.393
2018年6月1日発行　発行人 山口 登　編集人 美男
発行所 一般社団法人 北海道開発技術センター　〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17
TEL(011)738-336　FAX(011)738-1889　URL http://www.decnet.or.jp/　E-mail dec_info01@decnet.or.jp

News letter since 1985 01 JUN
Hokkaido Development Engineering Center
dec monthly
2018.6.1 vol.393　デックマンスリー

● Monthly Topic（マンスリートピック）
平成30年度　dec総会 開催報告

dec Interview >>>「北海道の地域とみちをつなぐネットワーク連携会議」代表、㈱紋別セントラルホテル 常務取締役　**田中 夕貴 氏**

広い大地を生かしながら 高規格道路ネットワークで地域と地域、人と人の間の時間距離を縮めて暮らすことができれば、北海道はもっと豊かになります。

北海道は61%、道外では86%。これは2018年3月末時点の高規格幹線道路の整備計画に対する実際の整備率です。各地に未整備区間が残るなかで、道民の生活者の目線から道路の重要性発信の旗頭となってこられた田中夕貴さん。10年余に及ぶ取り組みについてうかがいました。

今春の「北海道JCフォーラム2018」（日本青年会議所北海道地区協議会主催／4月28日・札幌）は「交通インフラ」がテーマ。パネリストとして道路の大切さを親しみやすく話され、「道」の文字をあしらった着物姿からも心意気が伝わってきました。

今回のフォーラムは道内人口の約4割が集中する札幌市で盛大に開催され、幅広い分野の方々にお話しできる好機と思い、頑張って出演させていただきました。というのも、私たちの活動は、単に交通インフラの条件不利地域から「高速道路が欲しい」と主張しているのでなく、道内主要都市間の時間距離が縮まることで、北海道全体がもっと豊かになることを多くの道民の方々に理解いただきたいからです。「北海道の未来のためのみちづくり」をオール北海道の声として大きなものにしなければと活動しています。

フォーラムは全道の青年会議所（JC）メンバーに「みちづくり」への関心を呼びかける機会でもありましたが、私自身、JCの活動が道路への取り組みの出発点でした。家業のホテル経営に携わることになって紋別JCに入会し、2006年には女性で初の理事長をさせていただきました。道路の大切さを痛感したのは、05年に紋別市内産婦人科の分娩取り扱いが停止されたこと。その後、他の診療科目についても常勤医師の減少が進み、多くの方が遠軽や旭川、札幌などへの長距離通院や緊急搬送を余儀なくされるようになりました。そうなれば道路はまさに病院へ続く廊下同然。安全で振動も少なく迅速に運ぶことが求められます。ところが、期待していた旭川紋別自動車道の完成は一筋縄では進まないと知って危機感を持ち、JCの仲間で道路について勉強し始めたのです。

2007年に「オホーツクのみちと未来を考える会」を立ち上げ、同時に「北海道の地域とみちをつなぐネットワーク連携会議」（みちネットの会）の構成団体となって全道レベルの活動も開始されました。

高規格道路と一般道の違いなど基本的なことから勉強するうちに、自分たちのまちに高規格道路は絶対に必要だ、と確信しました。そこでJCを中心に紋別市や紋別商工会議所に協力いただき、市民の方々に賛同を得ながら「オホーツクのみちと未来を考える会」を発足させました。これまでフォーラム開催などを通じて旭川紋別自動車道の開通実現を呼びかけてきましたが、昨年は京都大学大学院教授の藤井聡先生を講師にお迎えして「地域の暮らしと未来のためのみちづくりフォーラム」（11月2日）を開催。地域づくりの広い視野から道路整備の大切さを発信できたと思います。

dec Interview

たなか　ゆき
紋別市生まれ。家業の（株）紋別セントラルホテルに入社し、1991年常務取締役に。2006年（一社）紋別青年会議所・理事長に就任。07年「オホーツクのみちと未来を考える会」を立ち上げ、10年から「北海道の地域とみちをつなぐネットワーク連携会議」（みちネットの会）の代表を務める。（一社）北海道観光を考えるみんなの会・理事。

みちネットの会は、2006年に道内各地で高速道路の早期開通を求めて活動する民間5団体で設立された団体です。宮田昌利さん（釧路圏みちとくらしのネットワークフォーラム座長）の後を受けて2010年から私が代表を務め、現在、道内各地の13団体の連携で運動の輪を広げています。ブックレットの制作・配布などによる道民への啓発や行政への要望が主な活動ですが、中央要望活動では全道各地の代表の方々と毎年上京し、北海道選出の国会議員の先生方や国交省の道路局や北海道局、財務省主計局など関連省庁に北海道民の声を届けてきました。

民間の立場から高速道路整備推進を呼びかける活動に取り組まれて10年余り。そのエネルギー源は何でしょうか。

高規格道路ネットワークが地域に何をもたらすのか、学びながらやってきたことが力になっています。かなり前のことですが、全国ニュースで道内の高速道路未整備地域の住民が「高速道路は必要か」とインタビューされて「普通の道路でも80キロぐらいで走れるから、いらない」と答えた映像が流れました。道路の構造や機能について知識がなければ、こんな答えをしてしまう。知らないうちに命がけの高速走行をしているということであり、これが地元の声として紹介されることで道路整備はますます停滞します。

旭川紋別自動車道は、一旦は国が必要だと判断して整備計画がつくられ、それをもとに地元ではさまざまな投資が行われてきました。1989年に名寄本線の廃線に伴って国鉄の紋別駅がなくなり、これから地域はどうなっていくのかと暗たんとしたところを札幌までの高規格道路計画があるからと希望をつないできたのです。

紋別に限らず、生産空間として豊かであっても人の暮らしの条件が厳しい地方にとって、道路は産業や物流など経済的利便性だけでなく、医療や教育、福祉など暮らしに最低限必要なセーフティーネットなのです。そして北海道にとっては都市と地方がつながってこそ持続可能な社会に近づき、日本の食糧自給率を支えることができる。「未来に投資しない国に未来はない」という思いを深くしています。

中央省庁など東京に北海道の声を届ける要望活動では、ご苦労もいろいろとおありではないでしょうか。

知事さんを先頭に、自治体首長さんや経済界の皆さんが長年にわたり熱心に陳情をされています。でも、例えば九州は7県で7人の知事がおられますが、国土の5分の1の面積を占める北海道には知事はお一人です。また、行政だけにお任せするのではなく、知事の陳情が私たち道民の声だと言うことを民間の立場からも積極的に訴えるべきだと思います。

中央要望活動に参加し始めたころは、わからないことも多く戸惑うことばかりでしたが、全国各地から要望に来られているので、北海道らしい印象的な要望ができるように心がけてきました。例えば在京の方にとって「北海道」と言えば、ホタテやジャガイモなど豊かな「食」の宝庫であり、憧れの「観光地」です。特に身近なことではデパートの催事で一番人気の北海道物産展があり、「おいしい食の供給地」という面では誰もが共感して下さいます。それなら、その食を支えている道民の生活の足下を見ていただきたい、生産空間を支える人の暮らしに対する想像力を持っていただきたい。「北海道の広大な大地を生かし、生産に取り組む人たちが、その地域で暮らせなくなれば、日本人の安心安全な食は守られますか。多くを輸入に頼らなければならなくなります。私たちは子どもたちにそんな未来を残していいのでしょうか」と、北海道民の願いというより、日本全体の問題であることをお知らせする思いで声を届けています。

みちづくりの活動をリードしながら、ホテル経営者としても多忙な毎日を送っておられます。今後のご活動について教えてください。

実は、活動を始めた頃は生活者としての立場を中心にして、本業が観光関連であることをあまり表にださないようにしておりました。それは本業の利益のための活動と思われたくなかったからでしたが、今後はむしろ観光に携わる立場からも道内各地の仲間たちと活動が展開できればと思っています。インバウンドが大きく伸びていますが、現在はまだまだ道央圏に集中している状況であり、さらに北海道全体として受け止めて伸ばしていくためには、やはり道内各地をつなぐ高速交通ネットワークが必要不可欠です。ホテルで観光客の方々にアクセスを尋ねられた時に、地図を広げて北海道内の高速道路や鉄道のご説明をすると、途切れ途切れの高速道路や鉄道網の少なさに大変驚かれ、特に外国人のお客様は「ここは日本なのに？」、「北海道はこんなに広いのに？」などと言われます。限られた日程のご旅行の中で訪れてみたくても行きづらい所には行けないのです。私たちは地域の魅力を磨き上げて発信すると同時に、訪れてもらうための導線を確保しなければなりません。生活者にとっても観光客にとっても、そして北海道の産業を支えるためにも高速道路ネットワークが必要です。

みちネットとしては今後さらに活動の幅を広げ、応援団を増やしながら取り組んで行きます。現在、全道各地のJCでは「地域の道路」に関するワークショップが実施されており、それらを北海道JCとしての提言書にまとめるとうかがっています。みちネットとしてもJCの皆さんの若い世代の意見を携えて中央要望ができればと思っています。一人でも多くの方の関心や行動を掘り起こしながら、日本の未来のためのみちづくりとして北海道の高速道路整備促進を訴えていきたいと思います。

「北海道JCフォーラム2018」の様子

平成30年度 dec定時総会

平成30年度dec定時総会が5月31日、京王プラザホテル札幌において開催され、予定の5議案が滞りなく承認されました。平成29年度事業報告を中心にお伝えいたします。

北海道命名150年の節目。先人の情熱に思いをはせ、地域の強みと豊かさを引き出す

理事長挨拶

山口 登美男

今年は本道が「北海道」と命名されて150年で、この節目に名付け親である松浦武四郎や本道の地図を作成した伊能忠敬など先人の夢や情熱を振り返ることは有意義と考えます。現在の北海道では「食と観光」を強みにさまざまな取り組みが行われていますが、特に観光では外国人観光客の著しい増加が注目されます。その勢いを加速させるにはいくつかの課題があり、一つは道央に7割が集中する宿泊客を地方分散させることです。その点で高規格幹線道路の整備状況が気になりますが、平成30年度末の高規格道路の進捗率は北海道64%、北海道を除く全国は88%の予定となっています。インバウンドの経済効果を地方に浸透させることは政府が重視する政策でもあり、インフラ整備は欠かせないでしょう。

decでは、観光をはじめ多様なテーマの調査研究を手がけており、今年度も北海道の強みや資源などを効率的、効果的に活用するためのお手伝いをしてまいります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

会員数（30年3月31日現在）
法人会員：226社　個人会員：67名

新任役員　● 理　事：今 憲昭、宮木 康二

＊猪俣 茂樹氏、木下 勲氏は理事を退任されました。

自主研究

観光、公共交通、寒地技術、野生動物、環境教育など
多様化するニーズに応えて

平成29年度 事業報告

モビリティ・マネジメントに関する調査研究

日本モビリティ・マネジメント会議実行委員会の委員会活動の他、「第12回日本モビリティ・マネジメント会議」(福岡市)で7編の研究成果を発表しました。

沿道の環境保全、活用に関する調査研究

シーニックバイウェイ北海道の各ルート(指定13、候補1)について地域づくり活動等を支援し、社会的価値評価手法(SROI)の研究等を実施。NPO法人日本風景街道コミュニティ等と連携して全国の活動団体との情報交換や交流事業を行いました。

公共交通に関する調査研究

「第4回おでかけ交通博」(共催:国交省東北運輸局、福島大学、岩手県北上市)に参加し、「弘前市における鉄道・バスの利用促進の取組み」の研究成果を発表しました。

北海道エコ・モビリティに関する調査研究

「北海道エコ・モビリティ研究会」における調査研究として道北地域でサイクルイベント、サイクルバス運行等を実施。また、「さっぽろサイクルラボ」と連携し、都市型サイクルツーリズムに関する取り組みとして札幌近郊で7回のエコモビリティツアーを企画・実施しました。さらに自転車ガイド育成に関する「北海道エコモビリティセミナー」を開催して北海道観光振興機構の成果報告会で報告しました。

福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究

(一社)日本福祉のまちづくり学会北海道支部の活動支援を行い、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団発行「バリアフリー整備ガイドライン」の改訂に伴う調査協力を行いました。

「ふゆトピア都市」に関する調査研究

ウインターライフ推進協議会の活動に参加し、冬道転倒事故防止啓発サイトによる情報発信、砂箱広告や砂まき等の活動を実施。「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」の事務局として「雪はねボランティアツアー」を4地域で7回行いました。

吹雪時の視認性に関する調査研究

画像処理技術を応用し、走行車両から撮影した動画からドライバーの視認性を連続的に評価する手法について北大と共同研究を実施。成果を米国で開催のTRBでポスター発表し、評価を得ました。また、(国研)土木研究所寒地土木研究所公募の共同研究「画像解析による吹雪量推定に関する研究」で共同研究対象機関としての特定を受けました。

積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究

道路木本緑化に関する資料収集や現地調査を継続し、その成果を「雪氷研究大会in十日町」、「2017年度雪氷学会北海道支部研究発表会」(札幌市)等で発表しました。

エコ・コリドールに関する調査研究

ロードエコロジー研究会の活動として道央自動車道のオーバーブリッジでのモニタリング調査を実施。道路生態研究会の取り組みに参加した他、「第23回『野生生物と社会』学会帯広大会」の運営支援等を行いました。

エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究

(一社)エゾシカ協会等関係機関と情報交換等を行い、JRグループの鹿担当者会議に参加。鉄道総合研究所と列車事故対策に関する共同研究を継続しました。画像処理による動物検出システム技術の改良に向けた検討を進めた他、『エゾシカの被害と対策～交通事故問題編～』の出版に向けて対策事例に関する研究成果をとりまとめ、発表しました。

土木史に関する調査研究

文献調査、事例調査を継続し、成果を「第37回土木学会土木史研究発表会」、「第55回北海道都市地域学会研究発表会」で発表。「北海道みちの歴史研究会」の運営支援を行いました。

環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」の事務局運営及びウェブでの情報発信を行い、積雪寒冷地における電気自動車普及に向けた調査研究を実施。「北海道バイオディーゼル研究会」の事務局運営支援等を行いました。

北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究

「ニセコ羊蹄山麓体験型ツーリズム推進協議会」の事務局として地域ブランド確立に向けた協議会を開催し、特産品や新商品の開発・販売支援を実施。「道北の地域振興を考える研究会」に参加し、情報交換や道北地域の地域活性化について調査研究を行いました。

気候変動下における雪氷環境に関する調査研究

道東地域に設置した簡易型タイムラプスカメラによる防雪柵付近の積雪状況を観測。結果を整理し、防雪柵併設の効果を検証。研究成果を「雪氷研究大会2017・十日町」等で発表しました。

北海道の地域防災に関する調査研究

「ほっかいどう防災教育協働ネットワーク」に参加し、防災教育メニューに関する調査研究等を実施。「クロスロードの集い全国大会in熊本」、「第3回避難所・避難生活学会、第4回新潟県中越大震災シンポジウム合同開催」に参加し、情報交換を行いました。

北海道新幹線開業に向けた2次交通及び周遊観光に関する調査研究

新幹線とレンタカーの組み合わせによる周遊観光向上策について、道南の観光関係者等による検討会を開催。函館市の地域交流型体験メニューのモニター調査を実施しました。

学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究

路面電車沿線活性化協議会との協働により札幌市立資生館小学校で総合的な学習の時間の支援を継続し、㈱アドバコムとの共催で「みんなで考える公共交通アイデアコンテスト」を実施。また、土木学会主催「土木と学校教育フォーラム」に参加しました。

北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズム関する調査研究

藤村久和氏を講師としたアイヌ文化勉強会とアイヌ語地名勉強会を定期開催。ATTA(アドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーション)の広報サイトでアイヌ文化に関する記事を掲載し、北海道アドベンチャートラベル協会の事務局運営を行いました。

会場の様子

自主プロジェクト

技術情報の集積・活用と研究交流

寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理

「雪氷研究大会2017・十日町」、「第15回国際冬期道路会議（PIARC）2018グダンスク大会」、「第33回寒地技術シンポジウム」、「日中冬期道路交通ワークショップ」等に参加し、技術情報を収集しました。

技術資料等のデータベース化に関する調査研究

最新の社会資本整備技術資料・情報を収集整理し、データベース化やHPでの公開に向けた調査を実施。寒地技術や雪寒道路事業に関する資料を収集し、データベース化に向けた作業を行いました。

「寒地開発技術委員会」の設置

本会議の他、道路設計幹事会を開催し、4つのワーキンググループの会議を各3回開催し、積雪寒冷地の道路設計に関する調査研究を行いました。

インターンシップ制度

北見工業大学と北海学園大学から学生各1名の受け入れを行いました。

沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

シーニックバイウェイ北海道の活動団体を対象とした共同研究事業について優秀事例の選考や活動団体の研修派遣事業を実施。情報誌「Scenic Byway」発行やウェブを活用した地域情報の提供を継続しました。

日本都市計画学会への参加（新規）

同学会北海道支部に参加し、運営支援や技術情報の収集を実施。また、「第52回日本都市計画学会学術研究論文発表会」の実行委員会に参加し、運営支援を行いました。

◆開発事業等に関する調査研究の受託……計108件
◆関連機関・団体等への参加……計17件

研究成果の発信と国際交流の推進

調査研究成果等の紹介および普及

- ニューズレター（dec monthly）の発行12回
- ホームページの更新（http://www.decnet.or.jp/）
- 学会・シンポジウム等での研究発表等

デックマンスリー

出版刊行図書

- 「第33回寒地技術シンポジウム論文・報告集」（概要集等を会員・関係者に配布・販売）
- 「第17回『野生生物と交通』研究発表会講演論文集」の編集

第33回寒地技術シンポジウム論文・報告集

「第17回『野生生物と交通』研究発表会講演論文集」の編集

国際交流

- 国際冬期道路会議（PIARC）冬期道路委員会との技術交流
- 米国シーニックバイウェイ関係機関との交流
- ISCORD（寒地開発に関する国際シンポジウム）2019 フィンランド・オウル大会への準備
- 第16回日中冬期道路交通ワークショップ（中国吉林省長春市）への参加

第16回 日中冬期道路交通ワークショップ

シンポジウム、セミナーの開催

- 第33回寒地技術シンポジウム（開催地:札幌市）
- 第17回「野生生物と交通」研究発表会（開催地:札幌市）
- 地域政策研究セミナー等の開催（2件開催）

第17回「野生生物と交通」研究発表会

平成30年度 事業計画

本年度、decが取り組む事業について、2018年5月18日開催の理事会で承認された本年度事業計画に基づき、ご紹介いたします。

調査研究事業［自主研究］

- ◆モビリティ・マネジメントに関する調査研究(継続)
- ◆沿道の環境保全、活用に関する調査研究(継続)
- ◆公共交通に関する調査研究（継続）
- ◆エコ・モビリティに関する調査研究（継続）
- ◆福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究（継続）
- ◆「ふゆトピア都市」に関する調査研究（継続）
- ◆吹雪時の視認性に関する調査研究（継続）
- ◆積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究（継続）
- ◆エコ・コリドールに関する調査研究（継続）
- ◆エゾシカの被害対策に関する調査研究（継続）
- ◆土木史に関する調査研究（継続）
- ◆環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究（継続）
- ◆北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究（継続）
- ◆気候変動下における雪氷環境に関する調査研究（継続）
- ◆北海道の地域防災に関する調査研究（継続）
- ◆北海道新幹線開業による2次交通及び周遊観光に関する調査研究（継続）
- ◆学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究（継続）
- ◆北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズム等に関する調査研究（継続）

［自主プロジェクト］

- ◆寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理（継続）
- ◆技術資料等のデータベース化に関する調査研究（継続）
- ◆「寒地開発技術委員会」の設置（継続）
- ◆インターンシップ制度（継続）
- ◆沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業（継続）

調査研究成果等の紹介および普及

- ◆ニューズレター（dec monthly）の発行12回
- ◆ホームページの更新 http://www.decnet.or.jp/
- ◆調査研究資料等の発行（随時）
- ◆学会・シンポジウム等での研究発表等

出版刊行図書

- ◆「寒地技術論文・報告集vol.34」（「第34回寒地技術シンポジウム」資料、会員・関係者に販売）
- ◆「第18回『野生生物と交通』研究発表会講演論文集」の編集

シンポジウム、セミナーの開催

- ◆第34回寒地技術シンポジウム（開催地:札幌市）
- ◆第18回「野生生物と交通」研究発表会（開催地:札幌市）
- ◆地域政策研究セミナー等の開催（年4回程度）

国際交流

- ◆国際冬期道路会議（PIARC）冬期道路委員会との技術交流
- ◆米国シーニックバイウェイ関係機関との交流
- ◆ISCORD 2019フィンランド・オウル大会への参加と理事会事務局(北大)支援
- ◆第17回日中冬期道路交通ワークショップ（札幌市）開催

文責：dec